



東京学芸大学リポジトリ

Tokyo Gakugei University Repository

教科横断的な知の統合：
"変化"に着目した学習の価値や意味を考える

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2021-06-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 谷口, 善一, 西本, 麻知子, 西口, 翔子, 小川, 智子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2309/00173339

教科横断的な知の統合

～“変化”に着目した学習の価値や意味を考える～

Research on How to Conduct an Interdisciplinary learning

～discussing the value and meaning of learning based on the concept “Change”～

保健体育科 谷口 善一
国語科 西本 麻知子
研究部 西口 翔子, 小川 智子

1. はじめに

本実践は、保健体育科と国語科による学際的単元(以下 IDU とする)として位置づけられたものである。MYPにおける学際的な指導と学習の促進において、学際的とは、1つ以上の学問分野に取り組み、新しい、総合的な理解に達するための複数の学問分野の相互作用を期待するものである、と示されている。(2014年9月告示)

IBでは年1回以上のIDUの実施を求められており、これまでも様々なIDUの試みと報告がされている。それらは、重要概念、グローバルな文脈、同一のキーワードを起点として展開する。本校でも、「システム」などの重要概念を起点として、複数の教科の学習内容の単元を構想するケースが報告されている。これらの多くは、教室や実験室での学習について展開されたものである。

そこで本実践では、教室での活動に加え、生徒が自然の中で実際に体を動かして五感で感じる活動とも複合させるという、新たな試みを行っている。対象学年である1年生は、概念学習を始めて間もなく、その意義を理解するにはより多くの「概念」に親しみやすい活動の場を持つことが必要と考えられ、その点でも対象学年に適した実践であるといえる。

IBの提示する重要概念の1つである「変化」を起点として、保健体育科と国語科とで展開を行うこととした。保健体育科では、自然の中で体を動かすことで、自身の身体的「変化」や環境の「変化」に気づき、短期的な「変化」の見方を育む。国語科では、古典の学習を中心に、時代の流れ(=「変化」)に見られる長期的な「変化」の見方を育む。これら2つの教科の学習を通して、「変化」について幅広い見方や捉え方を育てつつ、授業を超えて自分自身で「変化」を探求する姿勢を養うことを目標としている。

また、本実践は12月17日および12月21日に行われた「研究授業」で、授業を公開している。この研究授業で得られた見解も併せて記す。

2. 国語科の授業実践

国語では、「変化」という重要概念に対し、和歌の鑑賞活動を行った。和歌の鑑賞を通して昔の人の世界観を探り、その活動の中で生徒自身が感じた「変化」について言語化する活動である。和歌は制限の多い表現形式であるがゆえに、一つ一つの言葉が表す意味やその背景が奥深く、探究する対象として適切だと考えた。また、季節の歌、恋の歌など、詠まれているテーマは現代と共通するところが多いため、古典に初めて親しむ中学一年生にとっても、現代と比較して「変化」を見つけやすいのではないかと考えた。今回は、比較による「変化」をより感じやすくするために、本単元を学習する季節「秋」に合わせて、『百人一首』の秋の歌を教材として取り上げることにした。「変化」を言語化する活動を通して、生徒たち一人一人が、「自分たちの感じ方や考え方で成り立っている当たり前の世界」を俯瞰的にとらえることができるよう、授業内容に工夫をこらした。以下、単元の指導計画を示す。

(1) 単元の指導計画

- 単元名…言葉を通して昔の人が見ていた世界を味わおう。～『百人一首』秋の歌の鑑賞
- 重要概念…変化
- 関連概念…文脈、ジャンル
- グローバルな文脈…空間的・時間的位置づけ
- 探求テーマ…「変化」は自らの世界観を揺さぶり、新たな可能性を開く。
- 事実的な問い…古典文学における世界の見え方はどのようなものだろうか。
- 概念的な問い…私たちはどのような時に「変化」を感じるのだろうか。
- 議論的な問い…私たちにとって「変化」を感じることは、どのような意味があるだろうか。
- 単元の構成（全14回）

第1次 言葉と世界の関わり方について、和歌、百人一首についての基礎知識を学ぶ。

- 言葉が私たちの世界の見方に大きな影響を与えている事例をいくつかあげて導入とする。
- 本単元が、重要概念「変化」を中心に据えた保健体育科と国語科のIDU（学際的単元）であることを説明する。国語の授業では『百人一首』の鑑賞を通して「変化」について考察を深める、ということを確認する。
- 『百人一首』や古典の言葉の基礎知識について簡単に説明する。
- 古典への興味、知識についてのアンケートを取る。次の授業までに興味や知識の度合いが偏らないグループを作り、以後、このグループでグループ活動を行う。

第2次 百人一首の札に触れながら、古典の世界に親しむ。

- グループで『百人一首』の札を使いながら、自由に遊ぶ。知識として学んだ歴史的仮名遣いに自然にふれる。

第3次 共感できる歌、できない歌を分類する。

- 『百人一首』から、秋に分類されている歌を書き出す。「秋らしい!」「なんで秋?」など、自身の感覚に照らし合わせて徹底的に分析する。(ワークシート、個人)

第4次 共感できる歌、できない歌を共有する。

- 秋の歌を、教師の範読に続き、声に出して読む。言葉の持つ響きや美しさ、リズムを味わう。

- グループに分かれ、前回個人で作成したワークシートをもとに、それぞれの共感ポイント、違和感を話し合って分析する。
- 話し合ったことを、グループごとに発表する。

第5次～7次 「共感できない和歌」のイメージポスター作り（個人）

- 16首の秋の和歌から、「最も共感できない歌」を一首選び、その歌のイメージポスターを作成する。形式は自由。なぜそのイメージポスターを作ったのか、どの言葉からそのイメージが浮かんだのか説明も考える。
- ※共感できない和歌についてあえてイメージすることで、『百人一首』に描かれた世界観に迫る。
- ※教室に『百人一首』に関する参考文献を常時用意する。生徒が自由にその本を読んだり、調べたりできる環境にする。

第8次…ポスター発表

- 小グループになり、作ったポスターを発表し合う。

第9次～10次…昔の人がどう「秋」を感じていたか分析する。

- 昔の人がどのように「秋」を感じていたか、グループで分析する。自分自身の当たり前の感覚や物の見方から離れ、昔の人の目線になって考える。
- グループごとに発表する。

第11次～12次 課題：鑑賞文作成

- 課題 『百人一首』秋の歌十六首の中から一首選び、どのような情景、場面を詠んだ和歌なのか考え、自分なりの解釈を作る。自分が作った解釈について、文章で説明する。課題評価のルーブリックを、図1に示す。

評点	規準A（分析）	規準B（構成）	規準C（創作）	規準D（言語の使用）
1-2	選んだ和歌について、ほとんど分析していない。	和歌に対する自分の解釈について、なぜそう考えたのか全く説明していない。	読み手の想像力に働きかける工夫が全くない。	全体が話し言葉で書かれており、レポートの言葉としてふさわしくない。
3-4	選んだ和歌について、表面的にしか分析していない。	和歌に対する自分の解釈について、なぜそう考えたのかをほとんど説明していない。	読み手の想像力に働きかける工夫がほとんどない。	言葉の使い方、漢字の間違が多い。
5-6	選んだ和歌について、ある程度分析を深めている。	和歌に対する自分の解釈について、なぜそう考えたのかをある程度説明している。	読み手の想像力に働きかける工夫が、ある程度みられる。	言葉の使い方、漢字の間違いはあまり多くない。注意深く適切な言葉を選ぼうとしている。
7-8	選んだ和歌について、教師の想像をこえるような鋭い分析を行っている。	和歌に対する自分の解釈について、なぜそう考えたのかを分かりやすく、ていねいに説明している。	読み手の想像力に働きかけるような工夫がこらされており、単なる和歌の解釈にとどまらない創造性を感じさせる。	言葉の使い方、漢字の間違いがほとんどない。注意深く適切な言葉を選びながらも、表現に独自の工夫をこらしている。

図1 課題評価のためのルーブリック

第13次…課題で作成した鑑賞文を紹介し合う。

○鑑賞文を書いた和歌についてお互いにインタビューしあう。

ペアになり、人を変えて三回ほど行う。和歌の作者になりきってインタビューを受けることで、自分とは異なる世界観への理解を深める。

第14次…ふりかえり

○単元を通してどのような「変化」を感じたか。ふりかえりの文章を書く。

(2) 授業研究会で公開した授業について

- ・対象クラス：1年4組（男子7名女子20名計27名）
- ・本時の目標：表現することを通して、自分とは異なる世界観への理解を深める。
- ・本字の評価基準：自分が作った和歌の解釈にもとづき、昔の人の世界観を自分の言葉で表現することができる。
- ・本時の展開

時間	学習の展開	学習活動	指導上の留意点	評価
7分	導入 課題の返却	・課題で作成した和歌を受け取り、評価を確認する。	・課題の評価基準について簡単に確認する。	
8分	展開1 ・インタビューについての説明と準備	・この後のインタビュー活動の準備をする。 (事前質問を考える。 自分の解釈を読み直し、内容を頭に入れる。)	・インタビューを受ける際、作者になりきるように、という指示をする。	・事前質問を考えているか。自分の解釈を読み直しているか。
25分	展開2 ・インタビュー 3分×2を、ペアを変えて三回行う。	・二人一組になり、インタビューを行う。3分経ったら役割を交換する。時間いっぱい使い切るように、インタビュアーは適切な質問をする。	・なるべく課題の紙を見ないように指示する。	・相手に質問をし、話を引き出そうとしているか。 ・歌の作者になりきって説明できているか。
10分	まとめ 活動のふりかえり	インタビュー活動を通じて、感じたことを書く。		活動を通して感じたことを文章にまとめられているか。

ふりかえりでは、以下のような意見が見られた。

- ・同じ和歌に対する複数の異なる解釈を知り、新しい物の見方を学べた。
- ・和歌の作者になりきって話すことで、頭で考えていただけの解釈に実感が伴うようになった。
- ・なりきることで、思っていたよりも深く説明することができた。

(3) 授業者より

この授業の活動を通し、自分とは異なる世界観への理解をより深めた生徒が多かった。活動の中で、

「作者になりきる」のは、作者の視点に自分の目線を重ねるためであり、インタビュー形式をとったのは、予測しづらい相手からの質問に即興で対応することで、文章化の段階では意識していなかった理解を掘り起こすためだった。変化を考察するためには、相手の世界に入り込み、その目線で物を見ることは非常に大事だと思ったからだ。

古典の専門知識がほとんどない中学生の学習なので、生徒の解釈が正しいかどうかという点には全く重きを置かなかった。(課題もそうしたことは評価していない。)自分とは異なる世界観を理解しようとする努力や、自分の「当たり前」を抜け出て新しい世界を体験しようとする姿勢を重要視した。

第14次の活動では、今回の学習を通じて感じた「変化」について考えた。時間の経過によるさまざまな「変化」はもちろん、「変化」を感じ、その「変化」について深く考えていくなかで、自分自身の感じ方も「変化」していったと考える生徒が多かった。ただ、当初目的としていた生徒自身の「当たり前の世界観」を揺さぶるところまでには至らなかったもので、活動や授業計画に改善すべき点があると考えられる。先ほども述べたように、解釈が正しいかどうかを度外視し、生徒自身の想像力にゆだねたことで、古典に対する苦手意識はある程度払拭できたと思う。古典の世界をよりよく知るためには、想像力だけでなく、正確な知識も必要となってくると思うので、そちらは今後の課題としたい。

3. 保健体育科の実践

保健体育科では、ジョギング・ウォーキングの単元を対象に授業を行った。重要概念である「変化」について、他教科にはない身体活動を伴った学習の中で、五感をフル活用しながら「変化」に注目して学習することの意味や価値を見出すことを目指した。

感じることでできる「変化」の例として、天候、気温、路面状況等を挙げ、さまざまな状況の変化が自らの走りに及ぼす影響について感じるように促した。また、具体的な数値としても結果を残し、視覚的に振り返りもできるように、運動前後の脈拍数と走行距離について数値を残し、グラフにまとめさせた。単元の進め方については以下の通りである。

(1) 単元の指導計画

- 単元名…ジョギング・ウォーキング
- 重要概念…変化
- 関連概念…適応、ものの見方
- グローバルな文脈…空間的・時間的位置づけ
- 探求テーマ…「変化」に気づくことが、よりよい実践
- 事実的な問い…視覚的、体感的に感じる「変化」とは何か？
- 概念的な問い…「変化」がもたらす、実践への影響とは何か？
- 議論的な問い…「変化」を感じることを意味があるだろうか？
- 単元の構成（全14回）

第1次…オリエンテーション

- 単元の進め方の確認と IDU についての解説
- 学習カードの使い方についての確認
- ためしのウォーキング（15分）

第2～4次…15分間のジョギング×3回

第5～7次…20分間のジョギング×3回

第8～10次…25分間のジョギング×3回

第11次…25分間のタイムトライアル

第12～14次…25分間のジョギング or ウォーキング×2回

(3) 授業者より

ジョギングについては、決められた時間を「自分の気持ちよいペース」でできるだけ歩かずに走り切れるようにペースを考えさせた。その際に、呼吸の仕方や走るフォームなどを変化させることで、走ることにどのような影響があるのかどうかなど、重要概念である「変化」を実感する機会をつくるようにした。身体活動を伴いながら五感を使って「変化」を感じることで、変わっていくものや変わらないものに気づき、次の学習への目標を設定することができた。

4. 総括的評価課題の実践と結果

(1) 学習のまとめとしてのウェビングマップの作成

学習のまとめとして、「変化」に注目した国語と保健体育科での学びを視覚化するために、ウェビングマップを作成した。

「変化」を中心として、国語および保健体育のそれぞれで気づいた内容と、双方の学びを通して、「変化」の視点から見出した新しい気付きについて、色分けしながら一枚のスライドにまとめた。

そのなかで、「変化」に着目して学習を進めることによって、「今までの自分を具体的に比較することができる」と、学習の振り返りに具体性を持てることになったことが書かれていた。また、「変化」を国語科では客観的に、保健体育科では主観的にとらえながら学習を深めたことで、全体の変化のプロセスをとらえることができるといった感想も見られた。

さらに、新しいものへの挑戦や、違いへの対応、ポジティブなマインドセットになるなど、学習内容にとどまらず、ものごとのとらえ方や気持ちの持ち方などにも前向きな効果があったことが散見された。

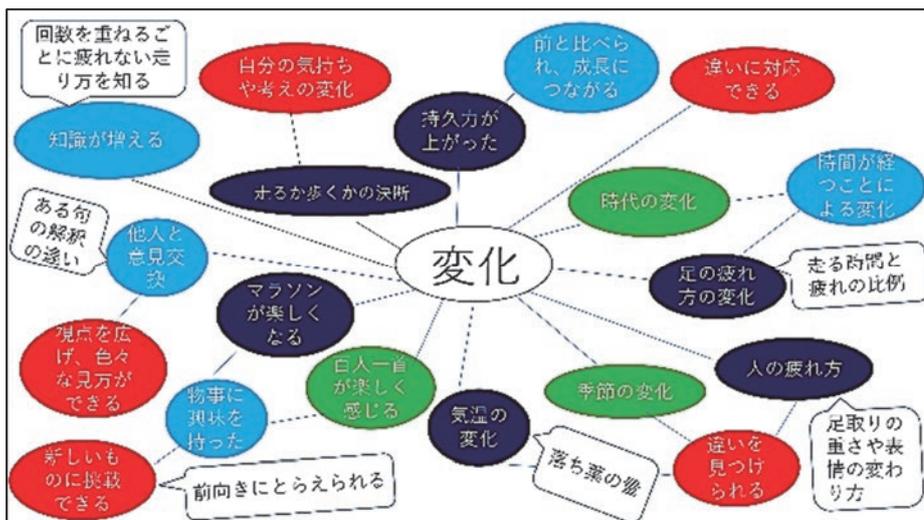
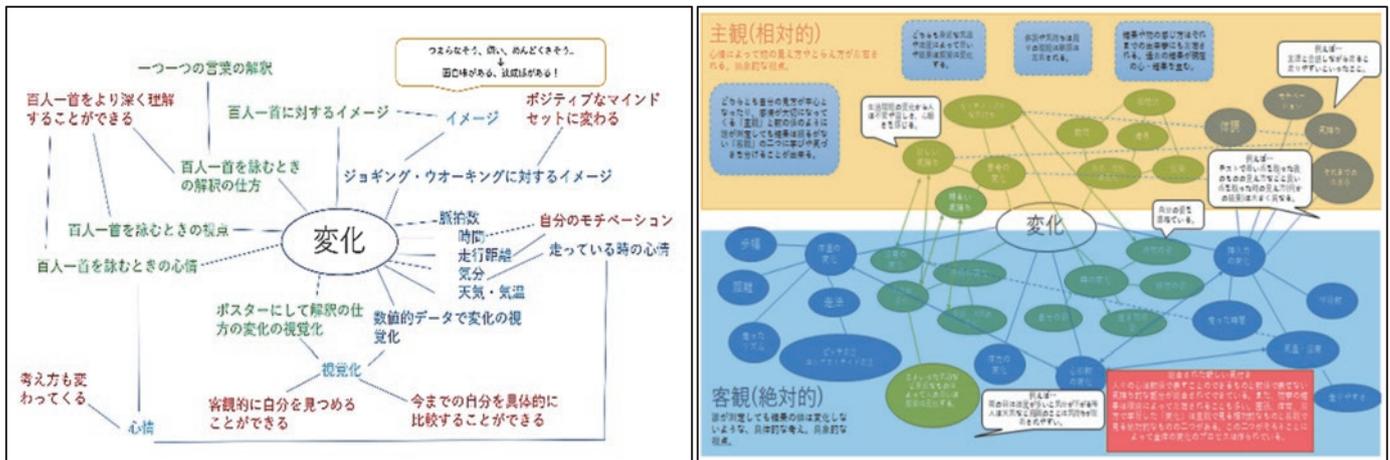


図3 「変化」のウェビングマップ

(2) 振り返り活動

今回の授業実践の総括として、生徒たちは以下の課題（ふりかえり）に取り組んだ。

- ① 「変化」に着目して学ぶことの意味・価値について説明しましょう。
- ② 今回の IDU の学習は、今後どのような場面で活かすことができますか。
- ③ 今回の IDU の学習を活かすことができないのはどのような場面でしょうか。

変化に着目して学ぶことで成長することができる、と考える生徒が多かった。以下、①に関する代表的な意見をあげる。

- ・過去から現在、現在から未来（ゴール）を一つの全体像として見ることで、自分が取り組むべき改善点が見つかりやすくなる。
- ・全く違うと思っていた2つの事柄の変化を考える中で、意外な共通点を発見し、新たな価値観を見出すことができる。
- ・変化に着目しながら学ぶことで、関連性を考えるようになり、導き出せる答えや考えられる可能性が増える。また、変化について考えることで自分が認識していなかった部分を意識するようになり、物事に対して新たな視点を見つけられる事ができる。
- ・変化に着目して学ぶことによって今の状況・昔の状況について深く考えたり、それによって客観的な判断が出来るようになる。
- ・学ぶことは変化を起こすことであり、それによってその人の知識や経験が増えていく。変化を起こすために学び、その変化が自分の人生を作るというプロセスには意味と価値がある。何かを学び、変化を起こすことで自分らしさを見つけ、自分の人生を作り上げる事になる。そのための学びは非常に大切だ。
- ・変化に着目するということは、2つのものを比較することでもあり、2つのものの良いところを自分のものとして取り込むことができる。2つを比較して見出した違いを具体的に分析することが、物事を改善する際に役に立つ。
- ・新しい視点で物事を捉えることを可能にする。「変化」に着目する学習を継続することで、多面的な思考力が身につく、独創的なアイデアを生み出せるようになる。

②に関しては、自己理解や、探究、創作活動の場面に活かせる、という意見が見られた。以下、代表的な意見を挙げる。

- ・変化に着目して自分の人生を総合的に振り返ることで、「進路」決定における自分の決断に自信が持てるようになる。
- ・物事を探究する際に活かせる。また、自分に合ったやり方や考え方を選ぶ際にも活かせる。
- ・小説や絵を描くなど、新しいものを生み出す活動。
- ・社会科。（過去と現在の変化に着目して学ぶから。）

③については、さまざまな場面を想定した意見が出た。以下のような意見があった。

- ・反省する時は、過去を振り返って何が悪かったかを考えるが、そこにずっととどまっても状況の解決にはつながらない。物事に対して反省するときには「変化」に着目しすぎない方が良いのではないか。
- ・人との感性の違いを見つけるのは良いが、他人からの影響を受けすぎて流されるのは良くない。その

ため、「変化」に着目する今回の学習はあまり生かせないのではないか。目に見える変化を求めすぎることもよくない。

- ・何かに初めて取り組む際は、自分にはその経験がないため、比べる対象がない。こういう場合は、変化に着目した今回の学習は活かせない。
- ・成長することを放棄した場合、変化に着目することは意味がなくなる。

(3) 授業者より

ふりかえりからは、「変化」に着目することで視野を広げることができ、自身も成長するとともに、その成長を感じやすくなることがわかった。これは様々な教科に応用可能な学習の価値であり、自己理解にもつながると考える生徒が多かった。

また、③については、設問の文章が少し分かりづらかったようなので、具体的な解答例を示すなど、生徒の考えを引き出す工夫をする必要があった。

Research on How to Conduct an Interdisciplinary learning

～ discussing the value and meaning of learning based on the concept “Change” ～

abstract

This study focuses on the interdisciplinary learning of physical education and Japanese classics, through one of the IB’s key concept “change.” As for physical education, change will be seen in a short term; student’s physical condition, change in weather, track condition. As for Japanese classics, change will be seen in a long term, comparing the past and present. The goal of the study is to encourage students to understand the concept of “change” in their own way from various perspectives beyond what they have learned through the lessons. For winter homework, students will have assignments to reflect themselves based on the concept of “change,” and be assessed on what degree they have extended their understandings.